



なきごえ



1986

8

大阪市
天王寺動物園協会

石濱恒夫



サクラの名所のひとつだったらしく、園内は満開の人出だった。母に連れられてきたのに、ふと気がつくと思はれて、そのひとも自分の子供の手だ、

と書いて歩いてくれているのは、まったく見も知らない小母さんだった。花と動物たちの陽気につい誘われて、そのひとも自分の子供の手だ、

なかったが、トラの檻では飼育係りが餌を与えていた。皮を剥いだまま赤裸の、まるごとのウサギであり、むしゃぶりついたトラの歯がかみくだく肋骨の音がした。檻のツル梅雨空へ啼き啼きかわす、こんな俳句も校友会雑誌に載せているから、そののちもときおり訪れており、骨といえば円内の広場の隔に、錆びた針ガネでつないで組みあわされ、白く枯れた木製でもあるかのように横たわっていたナガスクジラの、古びた骨格標本がなぜか懐しい。船場育ちの父からだろうか、あれはもと内本町の博物場の動物檻のあたり、東横堀川畔にあったものだと、聞いていたからかもしれない、学徒兵としての敗戦復員後、

(作家)

なぎごえ8月号もくじ

動物と私 2
“残暑お見舞い申し上げます” 3
動物園グラフ・動物園日記 4・5
暑い夏をのりきる！ 6・7
マレーシア、タマンネガラ国立公園の野生動物 8・9
ケンちゃんの好きやねん動物園 ② 10
動物園ニュース 11

表紙の写真説明

“イエガラス”

(Corvus splendens)

インド、スリランカからタイにかけて分布するカラスで、その名のとおりに人間の住む近辺で生活しています。

(撮影：荻野幸司)



残暑お見舞い申し上げます

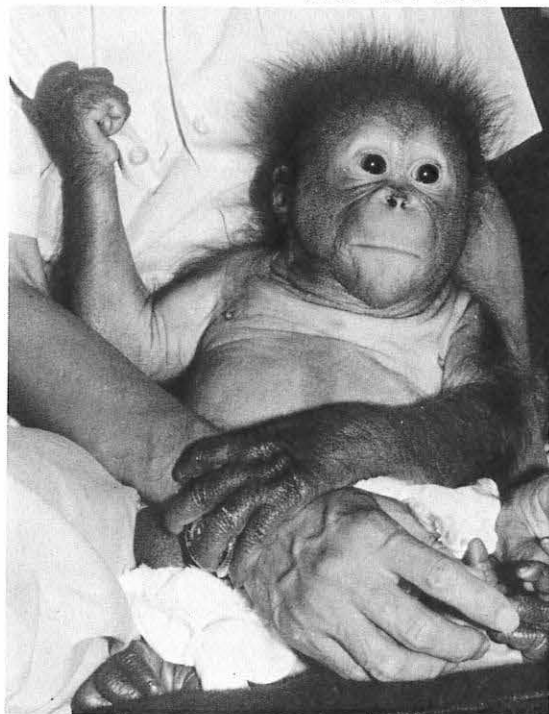
今年の夏もあと少し、暑さにも負けずクロオオカミの美美は毎日水浴を楽しんで元気に過ごしております。

(撮影：農本武志)

動物園グラフ

今年も1月14日の3つ子のトカラヤギの出産から出産シーズンが幕を開けました。やはり出産のピークは4月から6月にかけてですが、今年も待望の日本初のワライカワセミを初めオランウータン、ハイイロカンガルーと沢山の赤ん坊がその可愛らしい姿で入園されたお客さんの目を楽しませています。ここにその一部をご披露します。

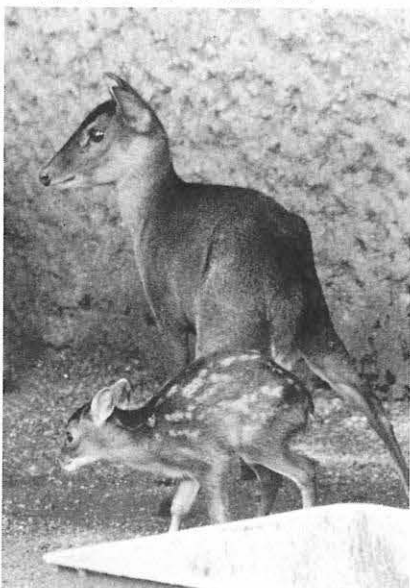
(撮影：野口秀高)



オランウータン
4月27日に生れた男の子です。お母さんのオッパイが出なかつたので人工哺育で元気に育っています。



バーバリシープ 今年も4頭の赤ん坊が育っています。ここに写っているのは3月26日生れのオスとメスの双子です。



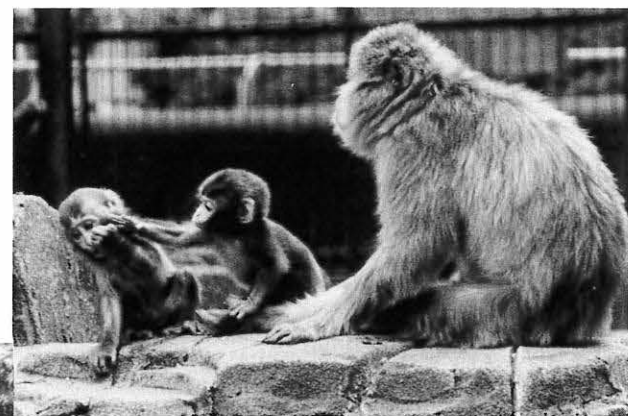
キョン 当園のシカの中では最も小型のシカです。この赤ちゃんは7月6日に生まれました。



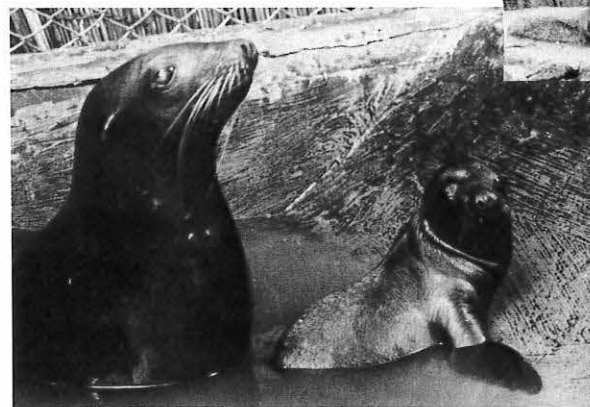
ニホンジカ 7月15日現在、3頭の仔が生まれています。この仔が一番最初に生まれた6月6日生れのオスですが、これからもっと弟や妹が生まれることでしょう。



リュウキュウイノシシ 今回が4回目の出産です。オス1、メス4の計5頭の赤ん坊達が元気一杯舎内を駆け回っています。



ニホンザル 例年、沢山の赤ちゃんで賑やかなニホンザルのサル山ですが、今年も5頭生まれました。この2頭は4月7日と28日生まれてとても仲良しです。



カリフォルニアアシカ 今年も3頭生まれました。6月6日生れのこの仔はまだ水泳見習い中です。

6・7月の動物園日記

- 6 / 11. キョンが1頭生まれました。
- 6 / 13. 5月10日にふ化したワライカワセミのヒナが巣立ちました。
- 6 / 14. トラのオス“ペーター”が血液の混った胃内容物を吐いたので、さっそく治療を始めました。
- 6 / 15. 第14回動物のお話とスライドの会「チンパンジー・リッキーの一年」を行ないました。
- 6 / 16. クロサイ舎・タスマニアデビル舎・マレーバク舎の消毒を行ないました。アカオザルが上腕部に裂傷をうけたので、

- 治療し隔離しました。
- 6 / 17. キンカジュウが交尾しました。ライオン全8頭にワクチン接種を行ないました。
- 昨年6月生まれのカリフォルニアアシカの離乳のため、魚への餌付けを始めました。
- 6 / 18. 夜行性動物舎の冷房を開始しました。
- 6 / 19. カリフォルニアアシカが1頭生まれました。
- 6 / 20. ボランティア・サマースクール研修会の第1日目が行なわれました。キーウイ・ハリモグラ・ハリネズミの体重測定を行ないました。
- 6 / 23. トラ全5頭にワクチンを接種しました。

- 6 / 24. 水禽放養舎の巣台上にいる本年ふ化のシュバシコウのヒナ10羽に個体識別用の脚帯を装着しました。グラントシマウマの“レディ”の出産が近いようで、乳房の腫脹がかなり目立ってきました。
- 6 / 25. フサオマキザルが1頭生まれました。
- 6 / 26. リュウキュウイノシシが5頭生まれました。
- 6 / 26. 定例飼育研究会が開かれました。
- 6 / 27. アオバズクを1羽保護しました。今月19日に生まれたカリフォルニアアシカの体重測定を行ないました。体重は7.5kgでした。
- 6 / 28. カラカルの子が左前足に裂傷を負ったので治療を始めました。

- 6 / 29. マナヅルが、今季2回目の産卵に入りました。ボランティア・サマースクール研修会の第2日目が行なわれました。
- 6 / 30. オランウータンの子の体重が4kgをこえました。
- 7 / 2. マナヅルが2卵目を産卵しました。
- 7 / 3. 元気を回復した保護個体のヨタカとムグドリを金剛山にて放鳥しました。
- 7 / 4. ニホンジカにメスの子が生まれました。
- 7 / 5. カリフォルニアアシカの若オスが、ボスのオスに追われ裂傷を負ったので、麻酔をした上で治療を行ない、別舎に隔離しました。
- 7 / 6. キョンが1頭生まれました。

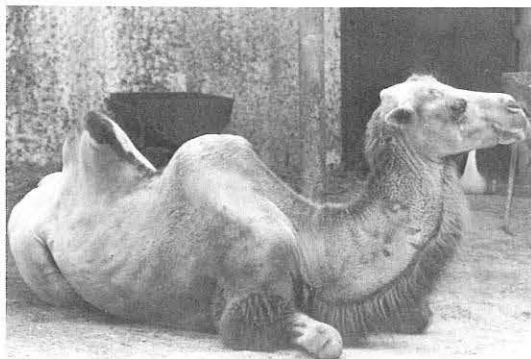
暑い夏をのりきる!!

★動物たちの暑さへの挑戦★

温度計も連日30℃を越す真夏日が続く此頃ですが、皆さんの体の調子はいかがでしょう。さて、この暑い夏を動物園の動物はどのようにしてのりきろうとしているのか、今回は彼らの暑さの対策方法をご紹介します。

暑さから身を守る方法としては、大きく分けると3つあると思います。まず1つは、体内に熱がこもらないように保温効果のあるものを除いてしまう方法、つまり我々人間が毛糸のセーターをぬいで半袖シャツになるようなものと考えられたらよいでしょう。2つめは体の仕組みをいかして体温の上昇を抑える方法、人間の場合、汗をかくことがこれにあてはまるでしょうか。3つめは涼しい環境に身を置く方法、すなわち我々がクーラーの効いた部屋ですごすようなものです。この3とおりの方法について、動物園でのいくつかの動物を例にとって説明しましょう。

まず第一の熱のこもらないようにする方法ですが、哺乳類の場合、その特徴の1つとして体表面は毛でおおわれています。この毛の役割の1つは体の熱をのがさないことにあるわけですから、冬はまだしも夏には熱の放散ということだけを考えれば、無



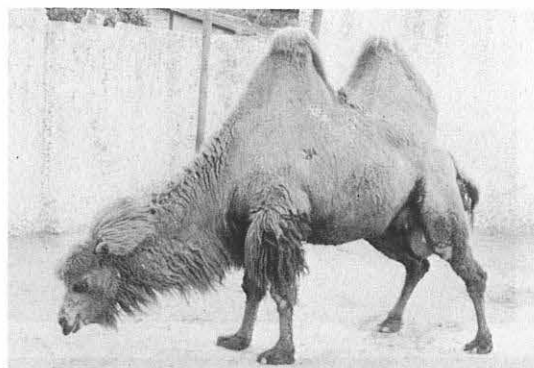
夏スタイルのフタコブラクダ

用のものともいえます。動物は換毛——冬の寒さをしのぐための密生した冬毛を粗雑な短い夏毛にかえること——により、人間の衣替えと同様のことをしています。身近なイヌやネコが春と秋になるとこの換毛によって毛がたくさん抜け変わるのに気がつかれた方もいると思います。動物園で一番よく目につく例はラクダやバイソンでしょう。なにしろ彼

らときたら、4～6月にかけてヌクヌクした冬毛をみるみるうちに抜けおとし、7～9月の間は地肌丸みえの状態にしてしまいます。夏向きの涼しげなスタイルに一変するのは涼感ささえそいます。

この換毛以外にも見えないところで暑さへの対処がなされています。それは皮下脂肪の減少です。皮下脂肪は熱の放散の妨げとなるだけに、これを減らしてしまえば体内に熱がこもりにくくなるわけです。夏になると食欲が減退したり油っこいものをきらうのは、体内の脂肪を減らすための自然な体の要求といえるでしょう。

2つめの体の仕組みによる方法とは、暑い時には人間は多量の汗をかきますが、これは汗の気化熱で体温の上昇を抑えているわけです。人間は動物の中でもっともこの汗を分泌する汗腺が発達しており、暑い時には1日に1ℓをこえる汗を出しています。動物でもウマやヒツジは汗をたくさんかくことで知られています。類人猿でも汗腺は全身に分布しています。しかしそれら以外の動物では汗腺の発達が悪く、汗をかくことはほとんどありません。イヌやネコでも足の裏にわずかに汗腺があるだけです。汗をかかない動物は2通りの方法で体温の上昇を抑



冬毛におおわれたフタコブラクダ

えています。1つは体内の熱を直接体外に出してしまう方法で、一番てっとり早いのが口をあけて速く呼吸することです。体内の熱を呼気とともに外に出し、冷えた外気を吸いこむというやり方です。イヌが暑い時に口を開けてハッハッとあえいでいるのはその一例です。また排尿や排便も効果は少ないにしても熱を外に出す方法です。寒い時にオシッコをし



口を大きく開けてあえぐオオカミ

おして冷やすというもので、第1の方法が直接的なものに比べると、間接的な方法ともいえるでしょう。このためには、皮ふが薄いこと、そしてそこには血管がたくさん分布していることが必要条件で、これにあてはまる器官が実は耳なのです。耳は物音を聴くためだけにあると考えられがちですが、ラジエーターのように熱を放出していることも忘れてはならない役割です。ゾウやウサギのような大きな耳ではこの役割がずいぶん大きいといえましょう。



耳も実は体温調節に一役

また体を長くのばすことは、体の表面積をまして熱の放散を助けます。寒い時には体をちぢめ、暑い時にはグッタリと体を横たえるのは、体が自然に温度に対応しているのです。

わて3つめの涼しい場所を選ぶ方法ですが、簡単な避暑法としては日陰に入る、水の中に入る、風とおしのよいところへ行く、などがあります。事

た後でブルッと震えることがあると思いますが、熱が逃げたために急に寒さを覚えた反射ではないでしょうか。もう1つは体内の熱い血を空気

にふれてい

実、動物園では暑い昼間は日陰に入って昼寝をしている動物がほとんどです。その日陰を作るために植



日陰でゴロ寝するライオン

樹をしたり籐棚を設けたり、ヨシズを張ったりしています。また水浴びを好む動物にはプールを設けていますが、動物園でも特に水浴の好きな動物はホッキョクグマ、ヒグマ、ゴリラ、トラ、ゾウ、バクな



水浴びの大好きなゴリラ

どで、暑い日には水の中に入りずくめです。人間の子供でも暑い日はプールから出たがらないのと同様、彼らも水浴はもってこいの避暑法なのかもしれません。

クーラーのきいた部屋ですごしたいのは人間誰しも同じ思いでしょうが、これでは体の調子が悪くなってしまいます。やはり夏は汗をかき、プールに遊びに行き、木陰で昼寝をする、そして皮下脂肪をおとし頭を短く刈りつめれば、きっとこの夏は暑さに負けないですごせるでしょう。

(飼育課：宮下 実)

マレーシア、タマンネガラ国立公園の野生動物

§ はじめに

6月3日、大阪空港から約5時間をかけ、一路シンガポールに向い、さらに約1時間をかけクアラルンプールに到着しました。日本の各地からこの旅に参加した9名は、日本を出発する時から心ははやタマンネガラ国立公園にとび、現地でのような動物達に出合えるのか、又、動物が警戒して姿を現わさないのではないかなど、と期待と不安を抱いての機中でした。

§ サイチョウ出現

今回の皆の第一の目的は絶滅寸前にあるマレーバクを自分達で観察できるかどうかです。

6月4日、朝5時にクアラルンプールをバスで出発し、4時間をかけクアラテンペリンのポート乗り場に到着しました。テンペリン川を下り、最初に出会った動物はスイギュウでした。ガイドの話では川端に住んでいる人々のスイギュウで、半野生化しているそうです。川岸や中洲に放牧しており、柵はなく、おもしろいことに、自分の牛がもし他人の放牧地の牛の群れに入ったら、その牛は放牧地の持ち主の所有物になるそうです。

ボートで移動している間もスイギュウはあちこちに見られましたが、突然川岸の密林の中から「バサ、バサ、バサ」と羽ばたく大きな音が聞こえました。その方角に目をやると、そこにはクチバシの上に大きな突起を持ち、尾羽の黒白の模様が特徴的なサイチョウが40~50m離れた木の枝を右から左へ、左から右へ、と大変優雅に飛び回っていました。

§ 国立公園到着

約3時間半のボートによる移動で、やっとタマン



タマンネガラ国立公園管理事務所前にて

ネガラ国立公園のクアラタハンに到着しました。公園管理事務所前で公園滞在手続きを行った後、一息いれる間もなく、ボートで10分程度の上流にある洞窟を探検しに出かけました。ジャングル内を約30分かけ高い湿度とヒルに悩まされながら、やっと洞窟にたどり着きました。洞窟の入口はやや大きく、中に入るとヒト1人が通れる位の大きさで、さらにその奥には広い場所がありました。洞窟内には異様なにおいがたちこめ、懐中電灯で照らすとコウモリが数百~数千匹飛び回ったり、天井にぶら下がっていました。この様な場所が洞窟内に3ヶ所ありましたから、コウモリの総数は数千~数万近くいたと思います。探検から帰る途中、「クォークォクォク

クォ」というフクロテナガザルの鳴き声が聞えましたが、どちらの方向からかは判りませんでした。

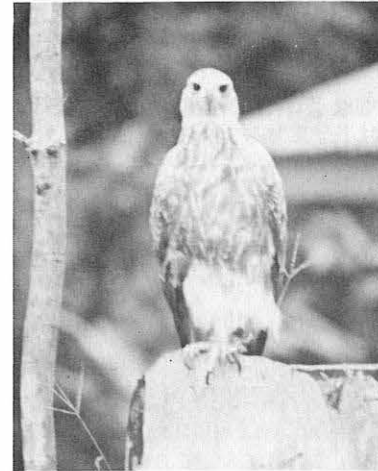
タマンネガラ国立公園は面積4343km²で、東海岸北部のケラタン州、トレンガヌ州、パハン州の3州にまたがる野生動物達の宝庫です。クアラトレンガン、クアラトク、クアラケンヤムには長期滞在用のロッジがあり、その内のクアラトレンガンに私達は滞在しました。

6月5日、朝食後、国立公園管理事務所の副所長アズハン氏からタマンネガラ国立公園と野生動物の保護について説明を聞きました。まず最初に公園内の教育活動ですが、年間ここを訪れる人は1万人近くで、アメリカ人、フランス人、ドイツ人が多く特に夏休みには多くのマレーシアの高校生が1~2週間の野外活動をしに来るそうです。そして、その間、直接ジャングルの中に入り、指導員から植物や動物の説明を聞き、観察を行い、理解を深めてゆくのだそうです。次いでレインジャーから野生動物を獵者から守る話を聞きましたが、これらの話は今天王寺動物園で教育活動を行っている僕自身にとってプラスになったと思います。

お二人からお話を伺った後、近くの山を登りました。約1時間30分の行程では動物に出会いませんでしたが、リス類の食べた跡と思われる木の実があちこちに見られ、巨大なアリ、無数のアブ、毒の実を観察しながら山を登りました。下山後、ロッジで昼食をとっていると、裏の林が「ガサガサ」というのでそちらに目をやるとイノシシが姿を現わしました。大きさも日本にいるイノシシ位で、話によると旅行者の残飯をあさりにくるということでした。

昼食後荷物をまとめ、第2の目的地、ジュストクンパンのクンバン観察所に移動しました。クンバン観察所へはテンペリン川の泥流に流れこむ細い川を上って行くのですが、この川は濃い紅茶色をしていて、私達はティーリバーと呼ぶことにしました。到着したクンバン観察所も林の中に立てられていました。中はかなり広く、2段ベッドが4つそなえられてあり、トイレもついていて、宿泊できる観察所です。翌朝、5時半頃なげなく草原の中を照らすと光る2つのものかげがありました。暗やみの中なのははっきりと確認できませんでしたが、シカみたいで、光るものは目のようでした。シカは雨が降りぬれてる草を食べに来ていたらしく、すぐ林の中に姿を消しました。そしてすぐ後で、3頭のシカが現われました。2頭は成獣で、1頭は子ジカのようなものでした。あたりを警戒しながら、子ジカを真ん中にして、5~10分草を食べたり、辺りを見渡して林の中に帰って行きました。明け方まで観察を行いました。動物は姿を現わさず、鳥のさえずりだけが、耳に残りました。

その後、クンバン観察所をあとにし、最終目的のあの野生のマレーバクを観察できるクアラトレンガンにあるアンジンハイド村に向いました。観察所へは現地の人で徒歩で村から45分、とのことでしたが、私達の足では約2時間もかかりました。山を登ったり、小川を渡ったり、岩場を歩いたりしての行程で、



ロッジへエサを求めてやって来るクシ

観察所内での会話は厳禁で、息を殺してマレーバクを待ちました。前の草原の真ん中には溜池がつくつてあります。マレーバクを待っている間、観察所に置いてあるノートを読んでみました。1月1日~6月5日まで、延べ200人余りがここを訪れ、約2割の人しかマレーバクを観察できなかったと書かれていました。その少なさに私たちは今日マレーバクが見れるかどうか不安になってきました。

日中、林の中で種類は不明でしたがサルの鳴き声がひっきりなしに聞え、同じサルがそれに答えるかのように鳴いていました。そして観察所の近くにあの特徴のある鳴き方をするシロテナガザルがやってきましたが、双眼鏡で探したものの姿を見つけることはできませんでした。私達は暑さとアリとアブと闘いながら観察を続けました。

§ マレーバク出現

午後5時10分「キューン」という金属音のような特徴のある鳴き声を耳にしました。マレーバクの声です。途端に私達は暑さもアリもアブも忘れ全身がいつべんに緊張しました。その鳴き声の方を注視しましたが、マレーバクは大変臆病で、仲々その姿を現わさず、2、3回鳴いたと思うと、少しの時間鳴くのをやめ、また2、3回鳴くといった事を繰り返しています。私達はマレーバクが近くに来ていることを確信し、誰一人コトリとも音をたてないといった緊張ぶりでした。それから待つこと2時間10分、ついに幻の野生のマレーバクが姿を現わしました。時刻は午後7時20分でした。私は興奮のあまり体中に鳥肌がでて、体がこきざみにブルブル震えているのが分かりましたが、どうすることも出来ず目の前のマレーバクを喰い入るよう見つめました。まだ外は薄明るく、頭から背中あたりまで黒く、腰のあたりは白く、尻にかけて又黒いその特徴的な模様がはっきり見えませんでした。一点のよごれもなく大変きれいな体でした。

約5分程度水飲み場をウロウロし、水を飲み、再び林の中に姿を消しました。私達は興奮して今見たマレーバクについて話し合っていました。ところが続いて7時33分2度目のマレーバクが姿を見せまし

た。1度目とは個体が違うようです。5分間水を飲んでいましたが、その時丁度こちらに顔を向けていたので、鼻を真直ぐ伸ばす様子がはっきり観察できました。さらに、7時49分、8時3分、8時5分と短い32分間の間になんと5度もマレーバクを観察できたのです。観察ノートにも、1日の内せいぜい4回見れたらいい方で、ほとんどの人が「今日は、マレーバクはその姿を見せなかった。」と記入しており、私達は何と幸運なんだろうと思いました。さつきから出て来たマレーバクは交互に水を飲みに出て来たものだと思います。



クアラトレンガン観察所内

たので、この個体はメスで妊娠中ではないかと思っています。

最後の7度目は午後11時55分で右の林から左の林に走り抜けて行きました。そしてこの7度目の個体を最後にマレーバクは、二度と私達の目の前には姿を現わしませんでした。それでも私は興奮さめやらず懐中電灯で闇の中を真夜中まで照し続け、マレーバクの姿を求めました。そして外に出て、夜空を仰ぐとあの南十字星が輝き、その美しさは私の目に焼き付いています。翌朝4時、クアラトレンガンの観察所を出発しました。あたりは真暗で動物も鳥もまだ眠っていて、闇の中には、虫達の音楽だけが奏でられていました。前日とは違い誰もが目的を達成したという満足感からか、周囲の景色をみる余裕がでてきました。かなり以前のゾウの糞、ゾウが通りなご倒された木の跡とか、小川には昨日なかったバッファローとかスイギュウの糞などもみつけることが出来ました。

帰りは約1時間半でアンジンハイド村に到着し村で汗を洗い流し、その足で船に乗り込みました。そしてテンペリン川を上り帰途につきました。

§ 終わりに

今度の旅の途中、人らしい人にはほとんど出会う事もなく、人間の手が全く加えられていない自然の中を旅する、まさしくワイルドライフの生活でした。しかし、機会があればもう一度マレーバクの姿を追ってみたいと考えます。(飼育課:土谷正道)

ケンちゃんの好きな動物園 <サマースクール> の巻

7月26日～8月3日

マンガ・松葉 健

① 夏休みになつたケンちゃんは動物園のサマースクールにいきました。最初の日は70人で7班に分けられました。

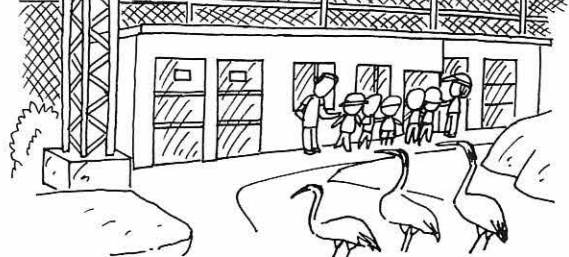


② ボクたちの班はまず「德行動物舎」で調理実習をしました。エサをつくるのもたいへんです。ミカン、リンゴ、バナナ、タマゴ、パンなどがカゴいっぱいありました。



壁に動物の名とエサの量を記した紙がはってありました。

③ 次は水禽放養舎にいきました。いろいろな水禽がいて、大きなオリの中へ入りました。奥の方に受精卵をふ化させるふ卵器があります。トリたちはなにごととこちらを見ていました。



④ 卵のふ化するところを見学しました。飼育係のおじさんは汗かくてせまい畜舎の中で生まれてくるいのちをみせてくれました。



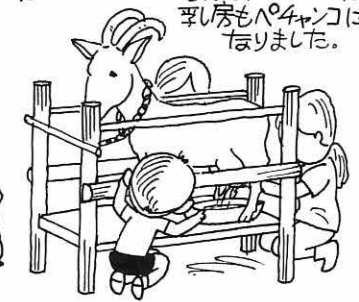
⑤ そのあと巣箱作りをしました。あらかじめ切った板を組み立てる作業ですが、動物園の倉庫には、工具や道具が揃っているので、感心しました。



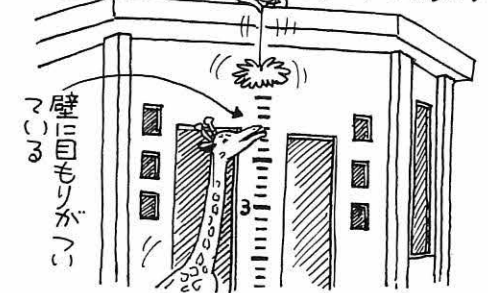
⑥ こんどはヒツジの毛刈りです。夏にオーバーを着ているように早く涼しくしてあげたいのですが、うまく刈れません。



横ではヤギのお乳をしぼっています。風せんのようにしぼる前と後では、乳房もパチャコになりました。



⑦ おもしろいのはキリンの身長測定です。キリン舎の屋上から、エサをぶら下げ、首がのびるまで、つり上げて測ります。



⑧ 最後にトラの居室でエサをやるところを見学しました。



トラは1匹で馬肉が3kgと鶏が丸ごと2匹分、2kgを1日(5kg)で食べるそう。でも飼育係のおじさんがエサをオリのすき間から与えるとバリバリと骨としゃべりに食べました。迫力があつた感じがしました。

午前10時から午後3時まで見学しました。

動物園ニュース

§ ワライカワセミの巣立ち

5月10日にふ化したワライカワセミのヒナは順調に成育し、6月13日の朝巣立ちしました。巣立ちしたヒナは、たいへん成長が早く親鳥とほとんど同じ大きさまで成長しており、全身の色がわずかにくすんでいること、尾羽が少し短いこと、下嘴の色が黒いことなどで区別できるだけでした。かわいいヒナの姿を想像していただけに少々期待はずれといったところですが、順調



に成育してくれることはうれしいことです。

また、親鳥は巣立ち後の6月16日、18日、21日に再び産卵し、抱卵に入りましたが、残念ながら3卵とも無精卵でした。

§ オランウータン順調に成育

4月27日に誕生したオランウータンのオスの赤ちゃんは順調に成育しています。生後50日目の6月16日に頭の大きさや胸囲、足の長さ、大きさ、腕の長さなどの測定を行ないましたが、すべて順調に増加していました。出生当初2000gであった体重も3400gになっており、さらに生後75日目の7月11日には4450gになりました。



6月2日からは1日30分ぐらいの日光浴も始めていますし、動きもたいへん活発になってきました。また視力も出てきたようで、6月27日頃から人の顔を追うようになってきました。



今年3頭目のカリフォルニアアシカの子メスの赤ちゃんが6月19日に生まれ順調に成育しています。

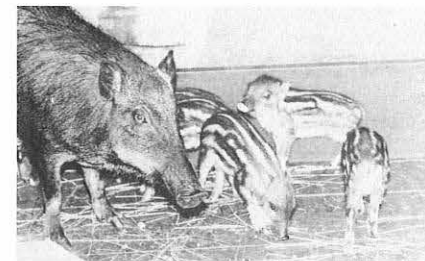
6月24日にはフサオマキザルの赤ちゃんが生まれ

現在の飼育動物数

(1986年6月30日現在)

哺乳類	13目	110種	435点
鳥類	20目	180種	605点
爬虫類	3目	33種	62点
計	36目	323種	1,022点

ました。出産をひかえ予備室で隔離飼育していたものです。母親は昨年12月に福岡県の海の中道海浜公園から来園したものです。



また、6月25日リュウキュウイノシシが、5頭(オス1、メス4)生まれました。

た。母親は今回で4回目の出産で、かわいいうり坊たちは元気に成長しています。

§ シュバシコウの個体識別

本年度のシュバシコウの営巣は11巣にみられ、4月下旬からふ化が始まり、8巣で21羽のヒナがふ化し10羽が成育しました。10羽の成育は過去最高の記録です。そこで、6月24日に個体識別のため、巣台に登り、巣立ち前のヒナの足に、個体番号の入ったアルミ環と観察のための色の異ったプラスチックのリング装着を行ないました。まもなくヒナたちは巣立ちすることでしょう。

§ ヤブツカツクリの出園

昨年ふ化成育に成功したヤブツカツクリのヒナ2羽を7月7日に埼玉県こども動物自然公園へ貸し出しました。3羽は今年1月に横浜の野毛山動物園へ貸し出しており、昨年産のヒナ5羽はすべて国内の動物園へ貸し出されました。

§ 園内植物だより



新サル舎へサル類が移動した後、空室になっていた旧サルアパート前にアサガオを植え込みました。金網の前に斜めにネットを張り約100株のアサガオを植えましたので、夏の風物詩アサガオを楽しんでいただけることでしょう。

アサガオを植え込みました。金網の前に斜めにネットを張り約100株のアサガオを植えましたので、夏の風物詩アサガオを楽しんでいただけることでしょう。

◎ お知らせ

動物のお話とスライドの会
8月24日(日) カメレオンと爬虫類の話
9月21日(日) 野生鳥獣保護のお話
10月19日(日) キリンのお話
時間：午後1時～2時
於：北園レクチャールーム

* 休園日のお知らせ *

動物園の休園日は毎月第3日曜日です。10月までの休園日は下記のとおりです。
8月18日(月)、9月16日(火)、10月20日(月)
開園時間は午前9時30分から午後5時までで、午後4時に切符売止めになります。



ゆとり満喫、信頼のカード。

ショッピングから海外旅行まで、
1枚のカードでワイドにご利用いただけます。
近鉄がDCおよびVISAと提携した便利な新カード。

近鉄グループカード **KIPS**
(キップス)

◎国内・海外のDC加盟店すべてに通用。
◎近鉄百貨店グループをはじめ、都ホテルチェーンなどでの
ご利用にはいろいろな特典が。

近鉄百貨店

お問合せとお申込みは 各店クレジットセンターへ

●アベノ店7階 ●上本町店10階 ●東大阪店本館 ●奈良店4階 ●西京都店1階
(京福ファミリー)

ひかりのくに

監修・阪口浩平
指導・宮武頼夫

●オールカラー

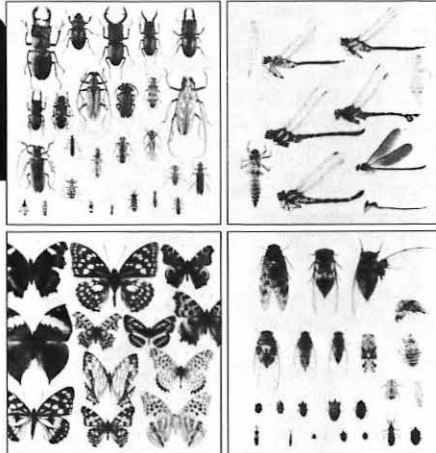
むし

くらしとかいかた

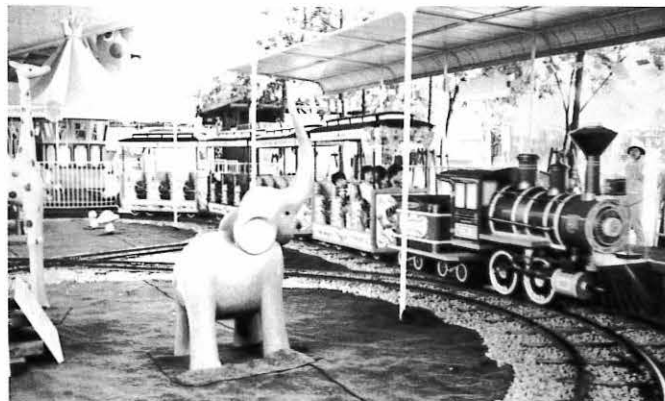
今まで、気にもとめなかつた自然の中で昆虫たちが生きている。みんなも、虫になって自然の中を歩いてみよう。きっとすばらしいことに出会えるはずだ。

85変形 580円

ひかりのくに株式会社
〒543 大阪市天王寺区上本町3-2



たのしいのりもの、が待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娛樂株式会社
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

いま、フィルムは 頭脳をもった。



高画質時代をリードする

はるかに美しく

フジカラー SUPER HR

カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031



- 貸出品目/ビデオ「動物園へ行こう」
①巻・20分(10本常備)
- 対象/保育園、幼稚園、小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し、郵送料450円は必要)
- 申込先/当協会まで、電話かハガキでお申し込み下さい。

動物観察の手引に

天王寺動物園
ガイドブック

のご購読をおすすめします。
(1冊¥450)園内各売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会

〒543/大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

動物文学会主宰 平岩米吉著

新刊

猫の歴史と奇話

(定価・2600円)
A5判・260頁
口絵挿画・113図

猫に関する古今東西の科学と文献を網羅し、しかも平易な文章で綴った猫の宝典。著者の三十余年にわたる収集研鑽の成果、ここに結実。

☆学術書でありながら、推理もののように愉しく読める猫の本
☆架空の伝説は別に、猫の珍しい実話400余を収載

主な目次

第一章 猫の歴史

欧州は古代エジプト、日本は宇多天皇から近世まで

第三章 猫の報恩談

蛇を咬んだり、金を運んだりする

第五章 猫の奇話(上)

長命、多産、三毛猫などの形態の奇話

第七章 猫の奇話(下)

マタビを媚薬とする奇妙な習性など

第二章 猫股伝説

老猫化けてさまざまな怪異をなす

第四章 野性猫の存在

裏日本の山猫、離島の山猫、鬱陵島の猫の渡来など

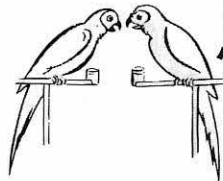
第六章 猫の奇話(中)

長距離の帰家記録や鼠を育てるなど不思議な行動

第八章 益獣としての猫

あらゆる角度から猫の生態と効用を探究

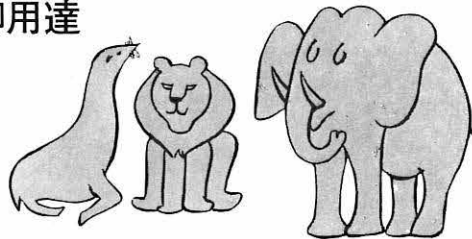
発行 動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話(03)717-1659・振替東京5-9800 発売 (株)池田書店 東京都新宿区弁天町43番地 振替・東京4-165425



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

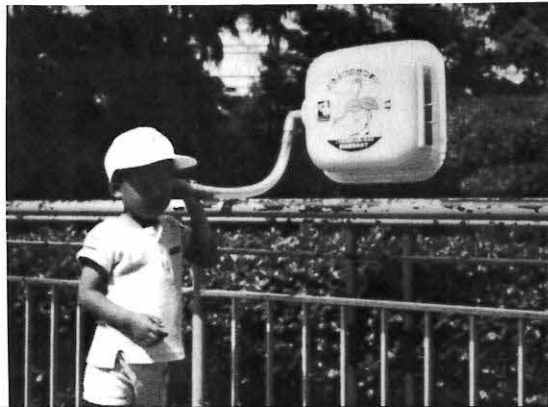
- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号 電話(078)221-8195(代)
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数カ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での

お食事、ご休憩は

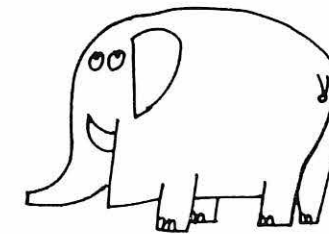
大阪市天王寺動物園内

中央売店

☎ (06) 771-0973



天王寺動物園内



南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 (06) 771-7110番

園内でのお写真は…

動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしくお願い致し
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。



果肉とソフトヨーグルト
の名コンビ

自然の
おいしさ



雪印ヨーグル

●ブルーベリー・キウイフルーツ・ストロベリー・オレンジ・カクテル

ペットを飼っている人にも飼えない人にも、この1冊

ペット大図鑑

あらゆるペットの飼い方、殖やし方、
治療法がひと目でわかります。

1部/犬・猫など 2部/リス・アライグマなどの小動物
3部/金魚・熱帯魚・海辺の生きもの 4部/洋鳥・和鳥・鳩など
5部/は虫類や昆虫など、めずらしい生きもの 巻末/ペットの便利情報ガイド

総監修/中川道朗 (大阪市天王寺動物園協会専務理事)

監修/浦東信夫/榊原安昭/内田 至

石原重厚 編修協力/宮武頼夫

特別
価格 **2,950円**
(定価3,300円) ※送料無料

同封の専用紙または郵便局の振替用紙にて
お申込みください。振替口座/大阪5-98163

(株)グリーンアド・コミュニティ

〒550 大阪市西区西本町3-1-46 TEL. (06) 531-0415

好評発売中



サイズ **AB判** (25.7×21cm)

カラー **160**ページ・全 **400**ページ

なきごえ 昭和61年 8月10日発行 (毎月1回10日発行) 第22巻 第8号 (通巻252号)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 中川道朗

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部) 1,100円(送料共)

編集委員

(土井良彦/伊東重朗/藤野勝吉/樽本 勲/中川哲男/前田豊彦/宮下 実/長瀬健二郎/榊原安昭/森本委利)
(大野尊信/山下奉之/農本武志/野口秀高/早川 篤/藪野幸司/堀 弘/大川光雄)

〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 37823